

---

# HOWEVER

亮也

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

HOWEVER

### 【Nコード】

N1685E

### 【作者名】

亮也

### 【あらすじ】

何で俺の居場所に、お前がいつもいるんだよ???うぜーだけじゃん?女なんて・・・。

## 第1話

何も考えたくない。

幸せって何だよ？？

俺にはそんなもの、いらねーよ。

なのに・・・

アイツはいつまでも俺に付きまとうんだ。

頼んでもないことを・・・アイツは懲りずにやる。

俺が、例え間違った道に進んでも。

アイツはどんなときでも、俺の前に現れて・・・。

俺に優しくするんだ。

「  
おい」

俺は朝っぱらからだりー学校に通う高校一年生。

俺は一言で言うと、不良だ。

茶髪之首筋まで伸びた髪。よく女子にはイケメンと言われている……。

だが、俺にはどうでもいい。

教師にも要注意人物として、俺を見張ることがある。

「あ？」

「お前相変わらず、モテるよな（笑）」

「言ってる意味がわからねーけど？」

俺は隣に座る親友の飛鳥真を睨みつける。

「だつてさ、見ろよこれ！！」

コイツは……。

校内新聞??

「お前、ダントツトップ（笑）」

普通ここで笑うか？？俺を馬鹿にしてんのか？？

「は？？」

俺は何でこんな顔に生まれたんだ？？

「まあ、当然だな」

モテたい奴がモテればいい……。俺は女ウケは真っ平だ。

「そんなん捨てろ」

俺は朝からイラつき、一人屋上に向かった。

「おい麗、何処に行くんだよ？」

何でお前に言う必要がある？

「屋上。一服してくる」

「俺も行くわ!」

「お前が来るとうせーから」

「何だよそれ!!」

そのままの意味だけど??

「じゃあな」

俺はうざい奴をほつといて、屋上に向かった。

\*\*\*\*\*

屋上には俺一人だけだった。

俺は学ランのポケットから、煙草を取り出す。

空を見上げた。俺は、よく屋上に来ると決まって空を見る。

今日も・・・一段と快晴だな。

アイツが来ると、「お前らしくねーな」って言われるのが目に見える。

だから、ここは俺専用の居場所だった・・・。

今の俺の態度はまさしく、不良だ。

飛鳥真置いてって正解だな（笑）

「あー」

は？何でここにいるんだよ？？

俺は、声のする方に目だけを向けた。

つか・・・、ここ俺だけじゃねーの？？

「そこ、私も座りたいんだけど・・・。」

は？？何だ？この女。

つか、俺を見てる割にはコイツ、冷静じゃね？？

そこらへんのうぜー女なら、耳がキンキンしてうつせーのに。

「は？」

「もうちょっと、詰めてくれる？？」

「何でお前の指図、受けなきゃいけねーんだよ!！」

第一、女に命令されるの、初なんだけど??

「図々しーんだよ!！」

俺は、声を荒くして怒鳴った。

それでも、この女は顔色一つ変えずに俺を見た。

「そんなのは、あんたに言われなくても分かってるわよ!!!」  
「立ちっぱなしも疲れるの!！」

俺は、反抗してきた相手が初めてでかなり驚いている。

気のつえー女。

それが、アイツの第一印象だった・・・。



ウザイ女

「てか、貴方はここで何してるの？」

隣の女が急に話掛けてきた。

何してんのって……

お前が俺の居場所をとったんだろーが！！

「別に」

「別につて（笑）」

どいつもこいつも俺の事馬鹿にしてんのか？

笑ってんなよ！

「お前は何でいんだよ」

「あ…私？一人になりたいからかな…」

コイツ友達いねーのか？

どちらにせよ、俺には関係ねーしな。

暫く沈黙が続いた。

両者一言も話そうとしない。

「ねえ…貴方ってモテるんですよ?」

何でいきなり聞いてんだよ!!

お前に話して意味あんのかよ。

「は?」

「やっぱり。」

意味不明……。

「意味わかんね」

「校内新聞に書いてあったから。彼氏にしたい人No.1の人（笑）」

女は横目でクスクスと笑う。  
俺は益々いらつき始める。

「お前ウザイ」

流石に傷つくか……。

「知ってるよ」

返事しやがるし。

「知ってんなら早くここから出るよ」

「私も今お取り込み中だから（笑）」

取り込み中とか何もしてねーだろ！！

「は？何処が？」

「何で私がここにいたらダメなの？」

「俺の居場所だから」

「あっそう」

「分かったら出てけよ」

しかし女は図太いもんだ。

今更ながら痛感する。

「出るよ！お前邪魔。出てけよ」

「分かった。最後だけ、質問してもいい？」

「何だよ」

「貴方の名前は何？」

何でコイツに話さなきゃなんねーんだよ

「は？」

「早く、教えてよ。名前くらいいいでしょーが！」

勝手にキレてるし……

「皆川」

「皆川君ね！じゃ、バイバイ」

何なんだアイツ……。

あのウザイ女がどこかへ消え去った。

噂の二人組（前書き）

## 噂の二人組

俺はあの後に屋上で煙草を吸っていたら、飛鳥真が来て……

「おい、麗さつき超美人の女の子いたよな？」

ウザイトークが炸裂。

「しらねーよ」

「そんなこと言ってよ！お前何気にやるなあ」

意味不明。

何言っ てんだ、コイツ。

「は？」

「美男美女カップルかぁ〜（笑）」

「勝手に話つくんな」

「まあ、今のお前じゃまだ無理だな！」

「死ね」

コイツの相手は疲れるだけ！

俺は屋上を出て現在に至る……。

今俺は体育館にいる。

何故かって？

今日は学年集会だからな。

「麗、またお前やかした？（笑）」

「は？」

「とぼけんな（笑）」

コイツ、ぶん殴りてえ！。

「何もしてねーし」

大体、俺はもし今日の集会で俺のせいで集まる事になったら

俺はいい注目の的だ。

「麗、お前呼んでる！」

「は？どいつ？」

「ほら、あそこ。」

飛鳥真は体育館の入口に立っている女の子を指を差した。

アイツ……うぜー女だ。

「は？何でアイツ…」

「アイツってことは、しってんの？」

知ってるも何も屋上で会ったんだから……。

「ああ」

「ふーん。そうなんだ」

反応薄……………。

でも余計な事聞かれないからいいや。

俺はあの女の所までゆっくり歩いた

皆の視線が一気に、俺に集まる

「何だよ」

俺は怠そうに女に向かって言った  
アイツは俺を見ると、顔をしかめながら眉を歪めた

「皆川君だっけ？」

今更、確かめるのかよ。

「皆川君にさ、ちょっと聞きたいことあったんだ」

「だから何？」

「皆川君は、水月ちゃん知ってる？」

…は？水月？

全然知らねえ…

「誰だよ」

アイツは溜息を漏らし、前髪をクシャクシャしながら俺を見た

嵐の前の静けさ

「水月ちゃんだよ!!」

「は??」

何なんだ・・・一体。

つか、誰が知らんし。

「え?・・・本当に知らないの?」

「あ

目の前のウザイ女は、俺の顔を不満そうに覗き込んだ。

「よく、新聞に載るんだけど・・・」

は？

そんなん知るかよ・・・

「どつやら、見込みなさそうだ・・・」

「は？」

「ううん。なんでもないよ！」

何なんだ・・・？？

つか、もう戻らねーと・・・

「用、それだけなら行く」

「あ・・・ごめん！！忙しいのに・・・」

「別に」

「今度、水月ちゃんに会わせてあげる!」

「は?」

「てか、新聞読みなよ(笑)」

何でてめえに言われねえといけねえの??

まじ女ってうざい生き物だ。

「じゃーね!皆川君」

女は体育館の方へと走り去った……

「お疲れ！麗！」

相変わらず、テンションが馬鹿高い。

しかも、なんかニヤついてて気色わりい・・・

「麗、この後どーする??」

「あ？」

「今日、集まるか？」

「ああ」

そういえば、今日集会だったか・・・

「麗、今日は俊先輩からなんか話したいことがあるみたいだぞ?」

ああ・・・多分、今後のチームの予定か。

もうじき、引退だしな・・・

「引退式、麗はもちろん出るよな?」

「ああ」

「俊先輩も、もうすぐ引退だな」

「ああ」

俊先輩には、いろいろ感謝している。

それでも、精一杯俺なりに頑張ったはず。

それでも、俊先輩がいなければこのチームは相当ひどく、荒れていただろう。

それぐらい、先輩には感謝していた。

先輩が俺を必要としてくれたのも、このチームを思ってたことだろう。

だが、俺には十分な存在理由だと思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1685e/>

---

HOWEVER

2010年12月5日05時39分発行